

トルクメン通信 第10号

2017年12月5日 作成

Salam! 記念すべき第10号です。筆不精なので、第10号を発行するまでに2年以上かかりましたが(笑)。もともと僕は「書くこと」があまり好きではなく、でも、「書くこと」に対する抵抗を少しでもなくそうと思ってこのトルクメン通信を書いているのですが、「書くこと」に対する苦手意識は徐々に薄らいできたかなと思います。ただ、発行ペースを見ていただければお分かりかもしれませんが、決して「書くこと」が好きになったわけではありません(笑)。毎回、苦労しながら書いています。

今号では、トルクメニスタンの中等教育段階で使用されている日本語教科書制作について、そして、アシガバット市内についてお伝えしたいと思います。

日本語教科書制作

こちらでも何回かお伝えしていますが、トルクメニスタンでは2016年から中等教育段階の日本語教育が開始されました。トルクメニスタンの学制は、2013年に改正され、初等教育(1年生から4年生)、前期中等教育(5年生から10年生)、後期中等教育(11年生から12年生)となっています。なので、日本語教育は5年生から12年生まで行われるということになります。トルクメニスタンの中等教育機関は4学期制で34週授業があります。日本語は一週間に45分授業が2回あります。



正確な時期は分かりませんが、2015年10月の安倍首相来訪を契機に、中等教育段階での日本語教育導入が決定されました。そういえばアザディの先生に「上原先生、今日会議がありますのでスピーチを作ってください」と突然言われ、「何のスピーチ書けばいいんだよ・・・」と思いながらスピーチを書き、どこかに行ってそれを読まされた記憶があります。後になって分かったのですが、その「会議」とは、中等教育において日本語教育及び中国語教育が導入されたことを歓迎する式典だったようです。

その後、教育省を通じてアザディ大学の日本語学科へ中等教育における日本語教育の指導要領及び5年生の教科書を作るように指示がありました。予想はしていましたが、「来月までに指導要領、来年までに教科書を作るように」と言われ、焦った記憶があります。その時は、指導要領も教科書もちろん作ったことがありませんので、どこから手を付けていいのかわからないという状態でした。現在は上級専門



家の先生もいらっしゃいますし、日本語の教材がそろうようになったのでそれらを参考にすることもできます。日本語以外の教科書やトルクメニスタン国内で使われている外国語の教科書も見られるようになりました。そして何より、実際に子供たちや先生方が教えている様子を見られるようになったことは大きいです。現在もいろいろ迷いながら作ってはいますが、最初と比べると、状況はかなり改善しました。

今号、そして次号以降では、いろいろあった教科書作成の経緯を、「5年生⇒6年生⇒7年生」という順でご紹介していきたいと思えます。書いてみたら予想以上に長くなってしまったので(笑)、今号では5年生の教科書作成とそれに関連する内容をお伝えします。

指導要領策定と5年生教科書制作(2015年11月～2016年8月)

教科書制作1年目は、「とりあえず作る!」ということで精一杯だったように思います。まずは指導要領の策定。骨組みはあるので、5年生から12年生までの内容を考えるようにという指示がありました。内容を考える際、次の3点を意識しました。①日本語を楽しむこと②日本語で簡単なやり取りができること③日本/日本語とトルクメニスタン/トルクメン語を比較し、子どもたちの視野を広げられるようにすることです。次の年から始まる5年生の内容は固まっていたのですが、正直12年生までの内容をうまく想像することができませんでした。また、他国の状況を踏まえつつじっくりと考えたかったのですが、インターネットが接続しにくいという状況や、大学やそのほかの業務と並行して取り組まなければならなかったのが、今改めて振り返ってみると反省点が多いです…。

次は教科書とその補助教材(ワークブック、CD、先生たちが教科書を効果的に使えるようにするための教具など)の制作です。ちなみに5年生の内容は、「(0課)あいさつ・ひらがな/カタカナ⇒1課わたし⇒2課かぞく・ともだち・せんせい⇒3課すうじ・ひづけ・たんじょうび⇒4課がっこう⇒5課きょうしつ」となっています。各課は3から4のパートに分かれています。まずは身近なことや人について話せるようになることを念頭に置き、内容を決定しました。1パートの構成は「①そのパートの学習内容を表す絵⇒②ひらがなを書く練習(パートによってはありません)⇒③いいましよう(単語・文型の導入)⇒④ともだちとはなしましよう(会話練習)⇒⑤ききましよう(聴解練習)⇒⑥かくにんしましよう(単語確認)⇒⑦かきましよう(ひらがなやカタカナの言葉を書く体験をする)」です。10歳前後の子どもたちが使うという点や日本語初学者であるという点、また突然のイベントなどで授業予定が変更されることが多いというトルクメニスタンの事情を考慮し、以下のような配慮をしました。

A 文字による負担を減らす。日本語にはすべてトルクメンアルファベットによる読み方を載せる。「③いいましよう」のパートはトルクメン語訳もつける。また、ひらがなやカタカナの読みに慣れることを目標にする(つまり、書けるようになる必要はない)。なので、「⑤ききましよう」の解答を言葉で書くときは、トルクメンアルファベットを使うようにする。「⑦かきましよう」は、「書けること」ではなく「書く体験をすること」を目的とする。

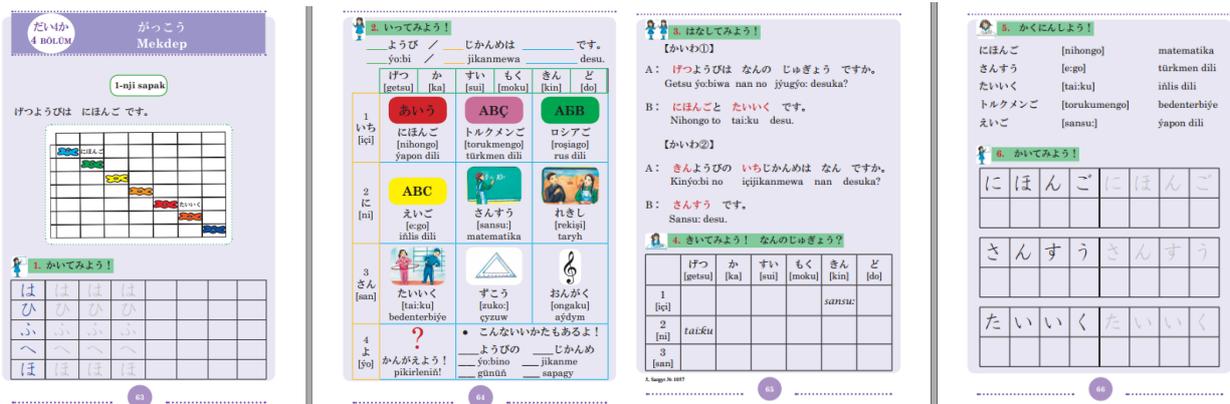
B 絵や写真、色などの視覚的な補助を利用する。「③いいましよう」の単語には写真や絵を入れる。「___じかんめは、___です」のように(本当は□にしたかったのですが…)、下線部分に単語を入れれば言える形で文型提示をし、下線の色とそこに入れる単語表の枠の色は同一にすることで、どの単語をどこに入れて言えばよいか視覚的にわかるようにする。

C 急な予定変更にも対応できるように、また、先生方の自由な裁量で教えられるように、教科書には最低限の内容を提示し、余裕を持った作りにする。

当初は、①の後にそのパートの学習目標、⑦の後に自己評価、そして各課の最後にその課のテーマと関わる日本の文化や社会の紹介を入れていたのですが、編集の段階で「トルクメニスタンの教科書として

そぐわないから」という訳の分からない理由でカットされてしまいました。編集者や教育省などに、なぜ学習目標・自己評価・文化紹介を入れるのか説明したのですが、全然わかってもらえず…歯がゆかったと同時に相手に納得できるように説明できない自身の未熟さを痛感しました。他にも、とんでもないところでページが区切られていたり、絵が思ったものでなかったり、ほしいフォントがなかったりと、技術的な問題や編集者やデザイナーとの意思疎通が図れないといった問題がありました。編集のために出版社に何回通ったか…。そして、CD 作成の際は、トルクメニスタン在留邦人の方々にご協力いただきました。まあ、出来はともあれ、2016年9月の開始にはなんとか完成させることができよかったです。

こんな感じで5年生の教科書は出来上がりました。しかし、実際に先生方が使っている現場や生徒が学んでいる様子を見ると、改善していかなければならないところがたくさんあるなあと感じました。6年生以降の教科書作成については次号ご紹介します。

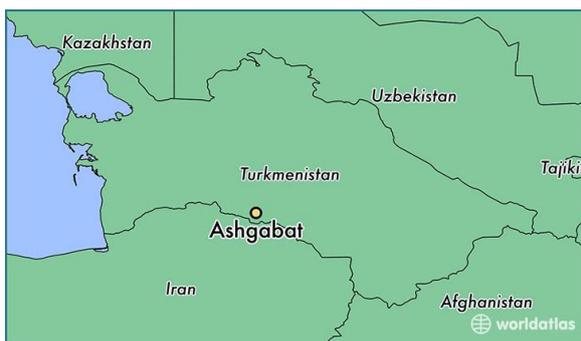


【1 パート構成例：だい4か - 1 「げつようびは にほんごです」】

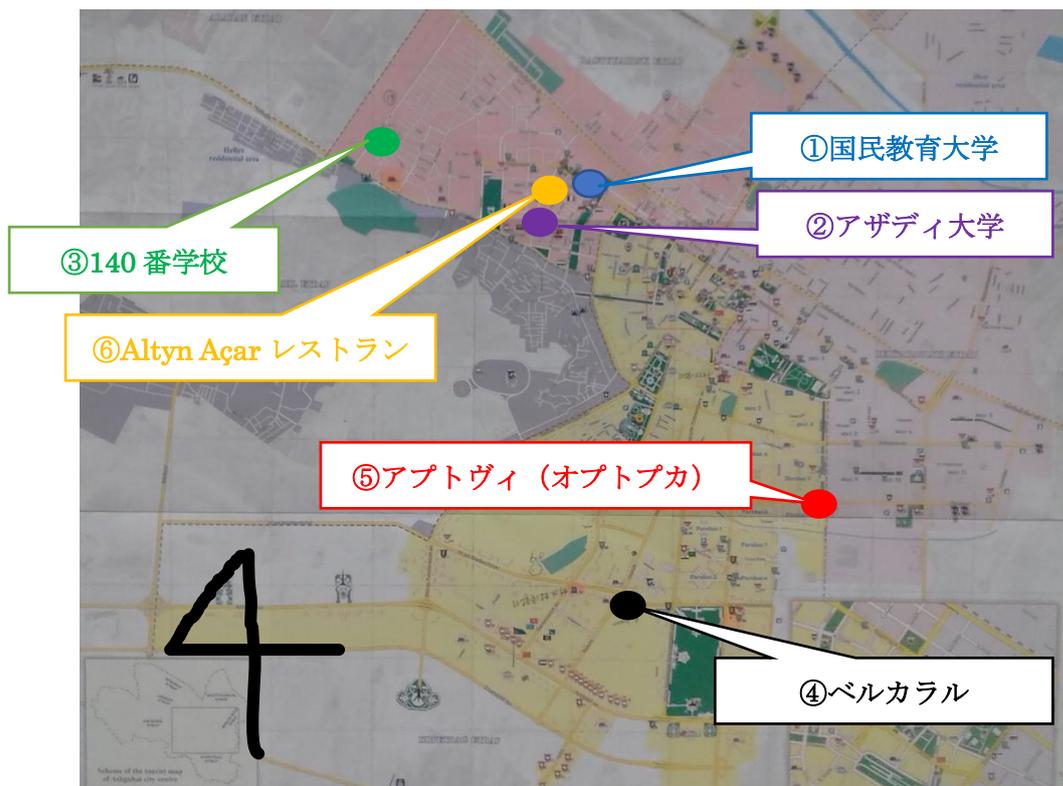
アシガバット案内

何をいまさらといった感じですが（笑）、このトルクメン通信では、日本語教育の様子を中心にご紹介しており、あまりアシガバット（というかトルクメニスタン）のご紹介をしていなかったな—と思ったので、これから何回かに分けてお伝えしようと思います。

アシガバットはトルクメニスタンの南、イランとの国境付近に位置しています（下記地図を参照）。イランの国境へはバスとタクシーで行くことができるほど近いようです。「アシガバット (Ashgabat)」の意味は、「Ashk-」が「愛」、「-abat」が「町」で「愛の町」ということなんだそうです。うーん、あまり「愛」を感じる町ではないですが…。また、こちらではトルクメン語で「Ak şäherim Aşgabat (白の都市アシガバット)」と言われているように、白い大理石の建物が多いことがアシガバットの特徴です。聞いたところによると、いつからか市内を走る車も白（もしくは白に近い色）にしなければならなくなったとか。徹底してますね…。その他一般的なアシガバットの情報はホームページでご確認ください。



今回は職場の周辺や僕がよく行くところについてご紹介します。



① 国民教育大学

ここで主に仕事をしています。近くにサーカスと食堂（名前がわからないので「サーカス食堂」と言っています）があり、よくその食堂で昼食をとっています。



② アザディ名称世界言語大学

週に何回かここで授業をしています。2年以上お世話になっている大学です。校舎が古い！夏は暑くて冬は寒い！パソコンやプロジェクターが使えない！でも、他の大学に比べてアットホームな大学です。僕にとっては一番思い出深い場所です。



③ 140番学校

こちらにも週に何回か訪問し、先生方と一緒にTTをしたり、日本語未履修者に日本語を教えたりしています。生徒たちが「こんにちは！」と元気よく挨拶してくれたり、「先生、おなまえは？」「おいくつですか？」などと教科書で習った日本語を使ったりしてくれます。元気がもらえる場所です。



④ ベルカラル

アシガバット市内にある大型デパート。中にはスーパーやレストラン、カフェなどいろいろなお店があります。僕は週1回のペースで行っています(笑)。いつも家と大学、学校の往復なので、息抜きにカフェに行って仕事をしたり、レストランで食事をしたりしています。あ、あと有料ですがWIFIがあるので、調べ物がたくさんあるときも利用しています。あと、スーパーで売っているケーキがおいしい！日常を忘れられる場所です。



⑤ アプトヴィ (オプトプカ)

中立 15 周年を記念して建てられた商業施設です。ベルカラルよりは手軽なお値段で買い物ができます。あと、トルクメニスタンのお土産を扱っているお店があり、一時帰国をする際などにはここでお土産を爆買いしています(笑)。

⑥ Altyn Açar レストラン

教育大学とアザディ大学の真ん中位にあるレストランです。ここでもお昼ご飯をよく食べています。おいしいですし、値段もリーズナブルです。スイーツも売っておりたまに買うのですが…うーん、甘い！アシガバット市内に同じ名前のレストランがいくつかあります。ちなみに「Altyn Açar」とはトルクメン語で「金の鍵」という意味です。

(写真は <http://www.altynachar.com> 参照)



気づけばほぼ大学・学校・デパート！(笑) そう、アシガバットにはあまり出かけるところがないのです！ただ、いろいろと興味深い場所もあるので、引き続きご紹介していきます。

今回は、5年生の教科書制作とアシガバット市内についてご紹介しました。次号も同じような内容になりますが(笑)、引き続きご覧いただけたら嬉しいです。

【写真】

1 ページ目：(上) 1年生の教科書と5年生の教科書の写真 (下) 140番学校5年生授業の様子

3 ページ目：(左) <http://www.worldatlas.com/as/tm/a/where-is-ashgabat.html> 参照

(右) アシガバット市内にある大通りの様子、両脇は真っ白なエリートハウス

国際交流基金日本語指導助手 (トルクメニスタン派遣) 上原龍彦
ご意見、ご感想は [azady.uehara★gmail.com](mailto:azady.uehara@gmail.com) まで (★を@に変えてください)